

☆アマナ達 あなたならどうする？ワークシート☆

1. 2歳。トイレに入ってきて、ママのおマタをのぞきこんでくる。

2. 年少、女の子。気がつくと、いつも机の角に性器をこすりつけている。

3. 年中、男の子。生理中にトイレに入ってきた子どもが、「なんで血が流れてるの？」と聞いてきた。

4. 年長。子どもとテレビを見ていたらセックスシーンが流れてきた。

5. 小学1年生。「どうやって赤ちゃんはおなかに入るの？」と聞いてきた。

6. 小学2年生。テレビでミッツ・マングローブを見て、「この人は、男？女？」と聞いてきた。

7. 小学3年生、女の子。パンツがおりものでよごれているのを発見した。

8. 小学5年生、男の子。ネットで有害なアダルトサイトにアクセスした履歴があった。

9. 娘の月経準備、いつからどんなふうにする？

10. 中学1年生、男子。洗濯かごの中、射精で汚れたパンツがそのまま入っているのを発見。

11. 中学2年生、男子。部屋にこっそりエロ本があるのを見つけてしまった。

12. 中学3年生、男子。息子の部屋に入ったら、マスターベーション中だった。

13. 中学3年生、女子。直接聞いてはいないが、最近彼氏ができたのではないかと思う。

14. 高校2年生、男子。彼女を連れてきて、部屋にこもっていることが多い。

第3回 家庭教育学級のご報告

親から子に伝えたい性共育講座

平成31年2月12日、助産師であり、3児の母であり、日本アマナ性共育協会代表理事の池本千有さん（通称:チャーリー）をお招きし、『親から子へ伝えたい性共育講座』というテーマでお話をさせていただきました。当日は91名の保護者の方にご参加いただき、家庭で起こりがちな『性』の問題に対する対処法を、チャーリーさんがユーモアを交えてズバツとお話してくださいました。



～当日配られたレジュメから～

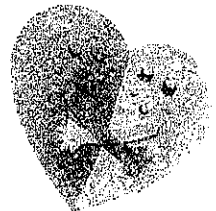
◇ 性教育の極意 ◇

その1：はずかしくないよ、当たり前なのです。

その2：明るく、はっきり、さらっと、ね。

その3：ピンチはチャンス！ また今度に逃げないで！

その4：なんと言っても、先手必勝！（親のまだ早いよ、いつだって遅すぎる）



講座前に記入していただいた「あなたならどうするワークシート」に沿って、具体的なシチュエーションに親はどう向き合っていけばいいのかを、チャーリーさんの実体験や調査データをもとにお話してくださいました。その中で、**親子のコミュニケーションが何よりも大事なこと**、そして「親たちも教えられていない世代なので、共に育んでいこうという意味で性共育なのですよ」と、親も変に気を使わず、子どもと素直に接していけばいいのだとお話するチャーリーさんに保護者の方も頷いて聞き入っておられました。

～印象に残ったチャーリーさんの言葉～

☆ 壁を作っているのは親のほう ☆ 上からではなく横から目線で伝える

☆ 難しい年頃の子には背中に聞かせる ☆ 性の多様性

☆ 性をまじめに教えてあげることが、後々性を大事にすることに繋がっていく

<参加した方の感想>

*目からウロコでした。楽しく勉強になりました。*恥ずかしいと思っていたのは大人の方なのだ気づかされました。

*高学年の娘に、もっと明るく、分かりやすく体の変化のことを教えてあげたいと思いました。

*家に帰って子どもと関わるのがワクワクしてきました。*紹介された絵本や漫画を子どもたちと読んでみます。

幼児～小学生にお勧めの本

『ぼくのはなし』『わたしのはなし』『ふたりのはなし』

山本直英/童心社

『知ってる？女の子のからだまんが「ポップコーン天使」』

子どもの未来社

『知ってる？おちんちんの不思議？「おれたちロケット少年」』

子どもの未来社 など

ご多用の中、毎回多くの皆さまにご参加いただきましたこと、感謝申し上げます。
1年間、どうもありがとうございました。

家庭教育学級委員会一同